



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 巻頭言

歯学教育者のためのワークショップ開催される  
歯学教育推進室 片岡 竜太



医学・歯学・薬学・保健医療学部・富士吉田教育部教育者のためのワークショップが、8月5日(土)、6日(日)に神奈川県葉山町 IPC 生産性国際交流センターで開催されました。歯学部のテーマは「学修成果の向上を目指したカリキュラムの見直し」で、主に5年次、6年次のカリキュラムの見直しを行いました。昨年度のWSで、5年次の臨床実習を「臨床実習Ⅱ」として、4年次に「臨床実習Ⅰ」、6年次に「臨床実習Ⅲ」を設置して臨床実習期間の延長と診療参加機会の増加を図るというプロダクトを作成し、教授会で承認されました。

今回は iOSCA (integrated Objective Structured Clinical Assessment) を6年生の臨床実習Ⅲ終了時に実施し、臨床実習Ⅲを履修していることをiOSCAの受験資格とする、さらに卒業判定は知識・技能・態度で行い、従来の卒業試験評価に加えてiOSCAの結果も加味するというプロダクトを作成しました。また5年次の進級判定で技能態度評価を明確にするために、各科でミニ OSCE を実施するなど、評価方法を検討することになりました。

一方、臨床実習Ⅲの実現に伴う課題もあげられました。臨床実習生が複数学年重なるので、病院内の教育スペースが不足することと指導教育職員の負担過重です。そこで臨床講座と基礎講座で共同指導(例:基礎:口腔微生物学 — 臨床:歯周病学「エビデンスに基づいた歯周病細菌検査法の実践」)することにして、今後基礎講座と臨床講座の組合せを検討することになり、学生の出席管理も厳格化することが提案されました。

4学部合同は「4学部の3ポリシー見直し」に4学部の学部長、学生部長が取り組みました。卒業時に学生が身につけるべき「ディプロマポリシー」、卒業までに能力を身につけるための「カリキュラムポリシー」、入学にふさわしい学生の「アドミッションポリシー」について各学部の特色を活かしつつ、昭和大学としての統一形式で受験生や社会にアピールできる質の高いプロダクトが提案されました。

オール昭和の活発な討議の後、学事部も含め100名以上が参加する合同の懇親会が開催されました。昭和大学の重要な課題とその解決のプロダクトに触れ、それがすべて来年から実施されるこのWSはまさに昭和大学の推進力だと思いました。最後に運営を支えていただいた学事部の皆様に感謝します。

## 昭和大学教育者のためのワークショップ(アドバンスコース)に参加しました

美容歯科学部門 小林 幹宏

昭和大学教育者のためのワークショップ(アドバンスコース)が8月5日(土)、6日(日)の2日間神奈川県葉山町IPC生産性国際交流センターで開催され、今回初めて参加しました。全学部合同のワークショップで、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部、富士吉田教育部から多くの方が参加されました。歯学部では「学修成果の向上を目指したカリキュラムの見直し」について討議されました。臨床参加型臨床実習の充実のために、6年生に臨床実習を設置し、臨床実習の期間延長が予定されています。それら変更に伴い、6年生で実施されている選択実習の方法、期間、内容、さらにiOSCAの実施日程、試験方法や評価法、5年生臨床実習の修了判定について討議しました。

グループディスカッションでは活発な議論が展開され、グループが一丸となってプロダクトを完成させることができました。6年生の臨床実習では学外の施設(国内、海外)で実習を選択することが出来る非常に学修成果の高い内容となっています。今回のワークショップでは今後の臨床実習のあり方を考えさせられる非常に有意義な時間でした。懇親会では、他学部の先生方と交流が深めることができ心から楽しい時間を過ごすことができました。

## 昭和大学教育者のためのワークショップ (アドバンスコース)に参加しました

口腔生化学講座 上條 竜太郎



8月5、6日に神奈川県三浦郡葉山町のIPC生産性国際交流センターにおいて平成29年度昭和大学教育者のためのワークショップが開催されました。医学・歯学・薬学・保健医療学部、富士吉田教育部のオール昭和の教職員が一堂に会し、それぞれのワーキンググループに学部混成ワーキンググループを加えた6つのワーキンググループに別れて作業が進められました。私は学部混成のワーキンググループに参加致しました。今年の混成グループのテーマは、「昭和大学4学部3ポリシーの見直し」に加えて「各学部の教育研究上の目的および養成する人物像の作成」でした。現在我が国の大学は教育活動の充実をめざして3ポリシー、すなわちディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを策定、ホームページ上で公開しております。今回は2日間をかけて、各学部の3ポリシーの見直し・修正を行い、引き続いて全学部の3ポリシーの整合性を統一し、同一形式とする作業を行いました。公開するにあたり策定された各学部の3ポリシーを改めて精査することは、学部連携教育を実践している本学には大変重要です。各グループの作業の各段階では、全グループが一堂に会してオール昭和の活発な討議が行なわれ、3ポリシーについても素晴らしいプロダクトが得られたのではないかと思います。最後に運営を支えていただいた学事部の皆様に感謝致します。



## 昭和大学教育者のためのワークショップ (ビギナーコース)に参加しました

高齢者歯科学講座 磯部明夫

8月7～9日に神奈川県三浦郡葉山町のIPC生産性国際交流センターにおいて第9回昭和大学教育者のためのワークショップが開催されました。本ワークショップは歯学部だけでなく、医学部、薬学部、保健医療学部、富士吉田教育部、看護専門学校の先生方36名が参加し、ほとんどが初対面の方々と熱いディスカッションや懇親会等を経験しました。



「望ましい学習とは」というこれまであまり考えたこともないようなテーマを始め、カリキュラムと目標、方略、評価といった内容について教育における問題点、それを解決する方法を各グループ内で討論し、その成果をグループごとに発表しました。グループ内の討論だけでなく、他のグループの発表内容を聞くことで考え方の幅が広がったと思います。さらに、東京医科大学の泉美貴先生よりアクティブラーニングのご講演をいただき、現代のグローバル・スタンダードとなっている教育についても知ることができました。

この3日間で教育の奥深さや本学の教育に対する熱い思いを肌で感じました。今回学んだことは今後の教育・臨床の現場で生かしていきたいと思います。参加者をご指導くださった先生方、各関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



昇任・採用

広報委員長 中村 雅典

片岡 有講師(歯科理工学部門)



## 歯科放射線医学部門の教授に就任しました

歯科放射線医学部門 荒木 和之

8月1日付で歯学部口腔病態診断科学講座歯科放射線医学部門(旧歯科放射線学講座)の教授を拝命しました。当部門は、昭和52年に昭和大学歯学部創設と同時に、初代三崎鈔郎教授のもと設置されました。私で5代目になります。設置40年という歴史ある部門の運営を任され気が引き締まる思いです。



大学における臨床系の教室(部門)には、臨床・研究・教育という3つの大きな役割があると考えられます。歯科放射線医学部門・歯科放射線科では口腔顎顔面領域の画像診断とそれに関わる研究・教育を担っています。初期はフィルムを用いたX線検査と読影が主で、教育や研究もこの分野に絞られていました。現在では、CTや歯科用コーンビームCTが頻用され、三次元的、時間軸を含めた四次元的な画像診断の研究が盛んになり、またX線検査もデジタル化され、研究の裾野も広がってきています。このような時期にこそ最新の研究に邁進するのはもちろんのこと、基礎を大切にし、臨床を誠実に実践することで、歯科放射線医学のさらなる発展に寄与したいと考えています。さらに、臨床・教育・研究を兼ね備えた人材の育成にも力を注ぎ、昭和大学歯学部歯科放射線医学部門から優秀な人材を輩出できるように務めたい所存です。

## 行事予定

広報委員長 中村 雅典

8月27日	富士吉田オープンキャンパス
9月8-9日	歯科病院ワークショップ
9月16日	歯学部入試説明会
9月28日	大学院秋季修了式
9月30日	富士吉田父兄会

## 日本歯科医学教育学会で昭和大学が存在感を示しました

高齢者歯科学講座 佐藤 裕二



7月27日から29日にわたり、長野県松本市で第36回日本歯科医学教育学会学術大会が開催されました。本学から常任理事2名、理事2名と監事を出しており、口演発表5題、ポスター発表5題、座長2名でした。「文部科学省 大学間連携共同教育推進事業:ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」の交付を受けて実施した3大学(北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学)の学生間交流に関しては、学生たちが教員にも勝るようなすばらしい発表をしました。

教育における昭和大学の存在感をアピールできた学会でした。1日目の夜には、宮崎学部長を交えて、3大学交流の懇親会を行い、学生を含めた発表者の慰労を行い、さらなる3大学連携を誓い合いました。本学会も法人化が控えており、役員数の大幅な削減が予定されていますが、本学の存在感を示し続けたいものです。



## APDSA(アジア太平洋歯科学学生会議) で発表をしました

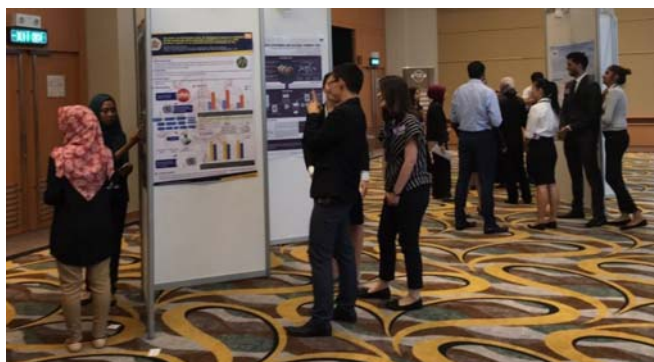
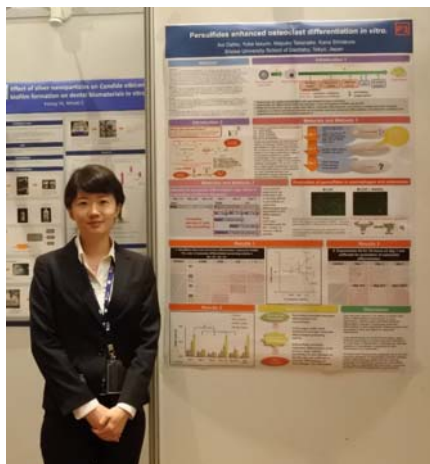
歯学部3年 大塩 葵

2017年8月1日から5日まで香港で開催されたAPDSA(アジア太平洋歯科学学生会議)で、硫黄化合物による破骨細胞分化の促進について発表をしました。

多くの刺激を受けることがで

きて充実した5日間となりました。この学会には13か国から300名以上の学生が参加していました。私は口腔生化学の先生の指導の下、マクロファージから破骨細胞への分化の際に硫黄化合物がどのような影響を及ぼすのかを研究しました。まず4種類の硫黄化合物をマクロファージに添加する実験を行いました。次にその中で最も反応が顕著であった硫黄化合物を用いてマクロファージの分化段階ごとに添加し培養する実験を行いました。基礎研究を発表した学生はあまりいなかったため、この研究の奥深さを伝えることに難しさを感じました。

海外はおろか大勢の人の前で研究発表することが生まれて初めてだったため、今までになく緊張しましたが、自分自身にできる最大のパフォーマンスをやり遂げられたことは、今後の私の歯科医療に対するモチベーションを大いに向上させることにつながったと感じています。同時に、これからも語学や研究に挑戦していきたいと思えました。海外で研究発表を行い、他国の歯科学学生と交流できる貴重な機会を得たことに感謝し、これからも自分の視野を広げていきたいと思えました。ぜひ校内でも他の学生が関心を持てるようにこの活動について広めたいと考えています。



## 歯学部オープンキャンパスが実施されました

入学支援課 鳥山 ちひろ

平成29年7月23日(日)洗足キャンパス(歯科病院)にて歯学部オープンキャンパスが開催されました。

歯学部オープンキャンパスは1日2回の開催で合計112組231名が参加し、昨年度合計109組224名を上回りました。会場となった第2臨床講堂では宮崎歯学部長の開会のご挨拶から始まり、富士吉田教育部田中教授による「富士吉田での学生生活」、歯科薬理学高見教授による「歯学部教育の特色・平成30年度歯学部入学試験・卒業後の進路」についての全体説明会が行われました。その後、6グループに分かれ歯周病科、歯科放射線科の施設見学や矯正歯科による患者ロボットの説明、さらに総合診療歯科による口腔内治療体験実習が実施されました。また、希望者には入試担当教員との個別面談が行い、参加者からは、「本学への進学意欲が上がり、貴重な話を聞く事ができ、参加して良かったです。」、「実際に患者ロボットの見学や治療体験ができ、貴重な体験となりました。」との声が寄せられ、大変好評のうちに終了しました。

引き続き、8月12日(土)に歯学部オープンキャンパス(洗足キャンパス)、9月16日(土)に入試説明会(旗の台キャンパス)を開催いたします。



## 編集後記

歯科放射線医学部門 松田 幸子

今年も教育に携わる先生方が、頭にたくさん汗をかきながら、いろいろな案を練っている姿、学生さんたちが活躍した姿をお送りします。次のステップにつながる経験がたくさんできたのかなあと、楽しい編集作業になりました。お忙しい中、執筆いただいた方へ感謝の気持ちでいっぱいです。